

令和2年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和2年5月14日（木曜日）

開 会 午後1時30分

閉 会 午後2時54分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. コロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策のあり方について
・参考人からの意見聴取
-

○出席委員（7名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	及川保君	委員	西田祐子君
委員	久保一美君	委員	長谷川かおり君
委員	貳又聖規君		

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

（参考人）白老商業振興会理事長 久保田 修一 君

（参考人）白老商業振興会副理事長 田 辺 真 樹 君

（参考人）白老商業振興会副理事長 村 上 英 明 君

○職務のため出席した事務局職員

主 査	小野寺 修 男 君
書 記	村 上 さやか 君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、これより産業厚生常任委員会所管事務調査を行います。

（午後1時30分）

○委員長（広地紀彰君） 本日は所管事務調査コロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策の在り方について、コロナウイルスによる町内事業者の現状等についてお話を伺いたく、白老商業振興会の代表の方を参考人としてお招きしております。本日はどうぞよろしく申し上げます。

では、本日は3名、久保田理事長、田辺副理事長、村上副理事長がお越しになっています。

それでは、協働組合白老商業振興会の皆様と懇談を深めてまいりたいと思います。まず、ご挨拶方、新型コロナウイルス感染症の影響の現状についてお話いただければと思います。

久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） それでは、皆様こんにちは。白老商業振興会の理事長の久保田と申します。よろしく申し上げます。このような場を設けていただき、我々の声を聞いていただけるというのは、今までありませんでしたので非常にありがたいこととございます。今後もこのような場で我々の意見を町議会に少しでも反映していただければなと思っております。

それでは、現状についてですが、その前に一応白老商業振興会というのは、昭和56年頃に協働組合として設立しました。博物館通りが新しくなるということで、その目的で協働組合という形で補助金事業を申請したという経緯があります。私は5代目の理事長で理事長になって10年ほどですが、あと1年位後には両副理事長にバトンタッチをしたいと昔から言っております。

今回、コロナウイルス問題ということで、先にお手元に配付してありますが、昨日テイクアウトのチラシを入れました。現状として特に飲食店関係が非常に厳しい状態で、大町で言えば飲食店関係、その他スナックなどもほとんどお客が来ないという状態で、かなりの部分が休業をしております。どうしても、飲食店関係が注目されているのですが、実際は、我々小売業も飲食店に食品や燃料などを納めているなど、いろいろなことを行っておりますので、その影響は相当な状態となっております。

今までであれば、お米を百、二百キロほど納めていたホテルに今は十、二十キロほどしかいかない、そのような現状ですので非常に切迫している状態です。一番懸念していることは資金繰りの問題もありますが、これを機会に倒産といよりも廃業する店も出てくるのではないかとということです。商店街では今のところこのお店が閉めるなどの話は出ていませんが、今後店を閉めるかもしれないとの話は少しずつ出てきています。コロナ問題がある程度片がついても、以前のようにはならないのではないかと懸念しているところであります。

少し戻りますが、居酒屋などの飲食店の状況が大変なものですから、これまで個々で多少は行っていたテイクアウトですが、今回、何件かから本格的に開始したいとの声がありました。個々でお客さんに知らせるのは厳しくて、そのために1店舗でチラシを作ると8万円から10万円ほどかかるため萩野地区までチラシを入れているのですが、各店から少しの負担金と残りは商店街で出すと

いう形で対応いたしました。

実際昨日から始まったのですが各店私が思っていた以上にお客が来ております。全店に聞いたわけではありませんが、必ず何件か来たとか。河庄さんではキノコ鍋が何個か出たとか、鍋を注文する人がいるのかとは思ったのですが、今日も結構お弁当など各店で注文が出ているようです。これはとてもよかったですと思います。これを商店街として継続させていきたいと思っております。こうしてお店が繁盛することで、我々も多少回り回っているいろいろなものが動いたりしますので、その辺を少し継続していきたいと思っております。

そのほかに食楽は今学校が休校して今月いっぱい休みの予定なので、前年の1割から2割まで落ちています。その中で、パート従業員を切るのは簡単ですが、復活した時にすぐ来てくださいというのは難しいですから雇用は継続する必要があります、そのための資金繰りは大変な状態です。国でそれに対する政策は出していますが、実際はいつお金がくるのか、手続きもすごく大変です。これは白老町だけの話ではないかもしれませんが、その辺について補助制度など町としても考えていただきたいと思っております。

それと、お年寄りもテイクアウトを頼みたいのですが、交通手段がありません。今回、白老交通さんで、1回500円、1,000円に対応すると言いますが、弁当1個にそれだけ払うという人はいないと思っております。できれば、お願いとして、既に室蘭市でも開始していますが、テイクアウト時のタクシーの宅配代を町で補助するなど、そういう制度がもしできれば非常にありがたいです。これは、商店街だけではなくて全町の飲食店も対象にしていいただければ、それだけ物は流通すると思うので、お願いしたいと思っております。いろいろなお店で物が売れないというのが現状ですので、我々が営業に行ってもお客さんが拒否をするなど実際に嫌がります。今までなら、ノックをして「毎度さん」と入って話ができたのですが、今では、「何しに来たのか、来ないでください。」のような、下手をするとクレームが来ますので、小売店などもかなり厳しい状況です。通常の営業ができない状態です。

話が少しそれるかもしれませんが、焼き肉のたれで有名な日本食研の営業マンのお話ですが、その会社は、メインの業務は食材卸しで、ホテルや旅館、飲食店に食材を卸しています。社長の訓示で先月、先々月の2か月で20億円の損失が出ているそうです。そして、夏のボーナスはありませんと言われたそうです。コロナウイルスの影響で、小さな店も売上げが非常に減少し、うちも夏のボーナスが出せるかどうかという厳しい状況になってきております。どういう形がよいのか分かりませんが、まちとしてお金が動く方法を皆さんで考えていただければなと思っております。私からはこのくらいのお話です。

○委員長(広地紀彰君) 田辺商業振興会副理事長。

○白老商業振興会副理事長(田辺真樹君) 田辺でございます。今日はどうもありがとうございます。今、大方、理事長の方から申し上げましたので、私の方からは特にございません。

○委員長(広地紀彰君) 村上商業振興会副理事長。

○白老商業振興会副理事長(村上英明君) いつも、白老町のためにご尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。カメラのむらかみの村上と申します。

うちの仕事は、この時期は特に幼稚園児、小学生、中学生を中心にクラス写真や、卒業写真、入

学写真などがありますが、今年は辛うじて、3月に小学校の2クラスの卒業写真を、保護者を入れずに児童だけで写しました。例年ですと8時半に1クラス目を写して、8時40分にもう1クラスを写すのですが、今年は、8時半に1クラス写した後に、除菌をして2時間後位の10時半に次のクラスをまた写しに来てくださいと言われ、生徒だけで撮りました。

保育園は3密をつくりたくないため、今回はご遠慮願いたいということでした。

あとは、入学式も白老中学校は保護者と新生生のみで行われ、記念撮影もありませんでした。5月19日に1年生のクラス写真を撮りましょうかと話も出ていたのですが、この状況ですので日程が不明で秋口に延期となり、どうなるかが分からず先行きが不安な要素ばかりです。

他に、葬儀ですが、参加された方は分かるかと思いますが、家族と亡くなられた方の兄弟くらいしか参列できず、10人程度の集合写真の撮影もたまにありますが、1組3枚程の注文しか来ない状況で、ほとんどが集合写真を撮らなくなっています。

これから、運動会が6月頃にあり、秋口になるとお遊戯会などうちの売上げを占めるのですが、5月に予定の中学校の卒業式が秋口に延期になるというところもあって、いろいろな行事が延期になり、実際どれだけの仕事がもらえるのか分からないというの現状です。

実際、前回の補助金では飲食業と、白老観光さんのような旅客運送業などがあるのですが、その対象範囲から外れている業種もあり厳しい状況ですので、広い範囲で考えていただければありがたいと思います。大体そのような状況です。

○委員長（広地紀彰君） ありがとうございます。それでは、まずお話を頂きました。委員各位よりいろいろとお尋ねしたいこと等あると思いますので、お受けしたいと思います。

ご意見、質問などある方はどうぞ挙手をお願いします。

及川委員。

○委員（及川 保君） 及川です。今日は、私たちの常任委員会の所管ということで、ご協力をいただきましてありがとうございます。マスクをしていると聞き取りにくいことがありますから、理事長のお話の中でも、後から確認をしなければならぬところが何点かあるのですが、1点は飲食関係ですね。今のテイクアウト、ようやくこれが始まるという思いでいるのですが、実は3月末位に議員の有志の中で、町へいろいろと要望していたのです。その中に、役場の職員は人数も多くいますので、テイクアウトで、飲食店に協力して昼食の弁当を要望しているのです。ところが、いろいろな要望をしたのですが、非常にゼロに近い感じの回答しか得ていない状況なのです。理事長のお話をお聞きすると、テイクアウトがスタートして非常に好評だという部分がありましたが、タクシー代を弁当代に上乘せして取り寄せする人はなかなかいないですね。そこを、まちとして何をするか重要な部分なのです。理事長のお話の中にありましたが、こういう緊急の状況の中で店を閉めなくてはならない状況が出てくるだろうと。これは本当に間違いない状況でしょう。我々も、店の状況を聞いていて2か月3か月と何か月も非常に厳しい状況が続いているため、閉店も出てきて不思議ではないですね。

今、具体的な話も何点かありましたので、私たちもこの常任委員会の中で、まちへこうすべきだというような部分を、委員の皆さんもいろいろご意見をまとめながら、また、理事長以下副理事長

のお話も伺って、盛り込んでいきたいと考えております。ぜひ、協力をお願いしたいと思います。
待ったなしの状況です。定例会6月会議がありまして、そこで各議員の一般質問があるのですが、それを待てる状況ではないため、常任委員会が今取り組もうとしておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

まず、具体的にお聞きしておきたいことは、学校給食についてですが、学校も今は休校ということで、それに関わる材料ですが、米や野菜などいろいろな物の消費がゼロですよ。この部分を具体的にどうしてほしいのか、ぜひ聞いておきたいと思います。まちとしてはどうすべきですか。

先ほどのテイクアウトの話では、タクシー代をまちが補助することで当然、弁当代だけになりますから、まちとしても大きな負担にはならないと思います。そういうことが可能かどうかも含めて、これから常任委員会で協議してみようと思いますが、皆さんの方からそのような具体的な希望があれば、ぜひ伺っておきたいと思います。

学校給食について、今どういう状況なのか、緊急事態宣言も知事の話では胆振管内は間もなく解除されると伺っておりますので、学校も始まると思うのですけれど、この状況をどうしたらよいかをぜひお聞きしたいと思います。給食などの米や原材料の部分などどうなのでしょう。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) 給食センターに関してはおそらく白老町内から購入をしていないと思います。白老の給食センターは、白老から食材がどの程度入っているのかは分かりませんが、お米は白老からではありません。

○委員長(広地紀彰君) 暫時、休憩します。

休憩 午後1時52分

再開 午後1時52分

○委員長(広地紀彰君) 休憩を閉じて委員会を再開いたします。

久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) 給食センターは外部に委託しています。日総でしたか。契約上は地元を優先しますと言っていますが、ほとんどは札幌からだと思います。今、町立病院も寿幸園も日清医療食品が入っています。ごく一部は地元から入りますが、かなりの部分は直接札幌からが多いと思います。北海道リハビリテーションセンターでもそうなのですが、施設関係で白老町がある程度補助・援助しているところが何か所かありますが、昔は北海道リハビリテーションセンター、町立病院それぞれで栄養士を職員として雇って食事を提供していました。でも、今の時代はほとんどが外部委託となり、職員より委託の方が安くつくのです。あの人達の言うことは、最初は地元を優先しますが、地元は高いということになって、これでは採算が取れないと徐々に変わっていくのが現状だと思います。だから、以前は小さなお店、昔の八百屋さんや魚屋さんのようなところは、ほとんど病院に入れていて、「納め」というのですが、いろいろな施設に納めてこそ、ある程度商売が成り立っていましたが、一般のお客様はスーパーへ行ってしまうし、納めるところも徐々に無くなってしまいましたので、小さいところは次々と閉めていきました。

これは、コロナとは別ですけれども、ある程度、白老町でもう少し指導できるか分かりませんが、我々の商品とか何かもできますので、できるものならもう一度見直していただきたいと思います。シダックスやシードは子会社で卸す会社を持っています。その辺が全部札幌から入ってきています。実際、大手だから仕入れは安いと皆さんは思うようですが、そうでもありません。会社が大きいので、一般の我々から見れば中間管理費が非常にかかっています。札幌支社があって東北支社があって日本の本社があってなど、そこに中間管理職が全部ついていきますから。

実をいいますと、私、今は社長ではありませんが、食楽という会社におりました。北海道栄高校さんへ食事の提供を行っている会社です。その時に言われたことは、もともとはシダックスが行っていたので、シダックスに対抗できないだろうと言われました。しかし、実際はそうでもありませんでした。調べると仕入れは安いのですが、中間管理職の経費分まである程度利益を取らなければ経営ができません。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 状況は分かりました。では、学校給食はとりあえず置いておきましょう。

これから通常の飲食店のテイクアウトにシフトして力を入れようとしていますね。これを進めていくためにどのような形にしたらよいと感じていますか。具体的には1つありました。タクシー代をまちが負担すると、そういう話ですね。ほかに、具体的にありませんか。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 実際に、テイクアウトを行っている店のチラシを今回出しましたので周知できましたが、ほとんどの方は知らなかったようです。皆さんは見たことがないと思いますが、白老町商工会のホームページでは、テイクアウトのお店の一覧表が掲載されています。でも、一般の方はほとんどそれを見ていないのです。白老のお店は、かなりの数でテイクアウトが可能なのです。我々商業振興会としては大町のお店をどんどん活用していただくのが一番よいのですけれども、やっぱり全体を考えた時に、もう少しPRできる場所があることと、今回チラシを作った時に考えたのですが、価格をきちんと明記するべきだったと思います。価格が入っていると、入っていないところがありまして、きちんと明記されているお店の方が、お客様は頼みやすいようでした。価格の表示がないと、お客様が問い合わせしなければなりませんので、そこが、今回の反省材料かと思いました。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 今、PRとありましたが、常任委員会の中で言うのはどうかと思いますが、例えば、役場の職員がお昼の弁当を率先して取って、そのことによって町民にも広められるということはあるのではないかと、実は僕は2か月前位から要望しています。貳又委員もいますが、いろいろ考えた中で、なぜ役場の職員に弁当を取ってもらえないのかという話でしたが、現状はどのようなになっているのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 実をいいますと、明日、今回初めて役場の職員からお弁当の注文を65個いただいています。毎週金曜日、これからいつまで行かうかは分かりませんが、持

ち回りでお弁当を 50 個とか 60 個を発注する予定です。明日水道課からも大町食堂ですが、10 数個注文が来ておまして、役場の職員も今回の件で少し意識が変わったというとなんですが、少しよい方向にいらっていると思います。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 及川です。分かりました。遅いくらいなのです。これを 1、2 か月早く開始していればよかったと思います。気運が盛り上がってきたと捉えてよろしいですね。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員から。

久保委員。

○委員（久保一美君） 久保です。現在このテイクアウトで、従来の売上げのどのくらいカバーができているのか、参考までにお聞きしたいのです。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） まだ、実際どのくらいかというのは、昨日から始まったばかりですから、はっきりとは分かりません。昨日の段階で何件かに聞くと、今までお客様がほとんど来ていなかったのが 4、5 件来ていたりとか、実際、これを言っているのかどうかですが、例えば大町食堂では、昨日何十個もお弁当の注文を受けております。おそらくこれがなかったら、本当に大変だったと思います。特にこの 4 月 5 月から、どこの店も売上げが落ちています。落ちている一番の原因というのが三密です。どうしても一時にお客様が集中して来てしまうので、距離が取れませんから、それを嫌うというお客様も結構いましたので、その分最近来なかった方がテイクアウトしてくれています。

施設からの注文が来ています。施設の人たちも出歩きたいというか、今までだと施設の人がバスに乗って 10 人位で食べに来ていたのですが、最近は全く無くなってしまいました。そのような人たちも利用されているのかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 久保委員。

○委員（久保一美君） 白老のほうは、まだ具体的な話にはなっていないんですが、このコロナ対策はぼんやりですけどまだ長引きそうだという実感があり、皆さんは予測をしながら日々過ごしていることと思われます。私も飲食店を経営していて店を閉めている状況ですが、食堂など、これから町なら町で 100%ではありませんが、対策についてのガイドラインが必要になってくるのではないかと、他市町村ではそれについて議論を開始しているところがあるようです。それについて各業者さんで現在行っているコロナ対策をここまで徹底していますということがあれば、教えていただきたいのです。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 個々の店では、せいぜい手の消毒薬をお店の前に置いて、通常よりは掃除も徹底していると思います。正直どこをどれだけどうしているのか分かりませんが、白老の場合ならテーブル、椅子の数を減らし、コンビニなどではビニールシートなどもかけていますが、普通の一般商店はそこまではしていないと思います。ただ、これからお客様によっては、そういう店でなければ行かないということもありますので、特にスーパーなどは、三密予防の

ために客同士が近くならないようなことは今後考えられると思います。ただ、飲食店関係もこれから多少考えています。3月4月は飲食店が一番稼ぎ時でした。12月もそうですけれど、3月は歓送迎会とか4月でも歓迎会などいろいろありまして、ある店では宴会が全部中止になって、200万円ほどのキャンセルが来たとのこと。それが結構あるのです。売上げが落ちたからと、いまさら町に負担してとは、今の財政状況では難しいと思いますけれども、せめて緊急事態宣言が解除されて落ち着いてからでよいので、議会の皆さんや役場の職員さんたちも、大勢ではなく、3、4人でよいので、食べ歩いていただきたいというのが、我々の希望です。

○委員長(広地紀彰君) 久保委員。

○委員(久保一美君) これから議会としても議論する部分の話でもありますし、各業者さんの声を、お客様から聞いた声として、いろいろ共有していきたい部分もあります。

○委員長(広地紀彰君) それではほかの委員からの質疑をお受けします。

西田委員。

○委員(西田祐子君) テイクアウトの件で、先ほど白老交通さんで配達料が500円、社台・石山・萩野・北吉原で1,000円とあり、正直言いまして、少しの金額のお弁当にこれだけお金を払って注文するかとなると、なかなかしないと思います。

白老町として、これを補助金として出していただけのなら、ここの部分というようなお話もありました。実際に白老町商工会のホームページ内のお店の中で、出前をしている店としていない店とがあつて、出前をしている店は、基本的にその店が責任を持って人を雇っているし、車も置いているわけですね。今回この形になった時に、もし町で補助金を出すとなると、そこに差が出てきますよね。その辺はどのようにお考えになりますか。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) 正直、そこまでは考えていませんけれども、現状、この字白老で、出前を実施しているのは大鳳さんだけです。あと、どこも出前をしておりません。要は、出前するだけの人を雇えるまでの店は皆無に近いような状態です。それだけ非常に切迫している状態で、出前するとなるとパートさんなり1人雇わないとできませんので、萩野とかは分かりませんが、おそらく出前はしていないと思います。昔は出前が当たり前でしたけれども、今はほとんど出前をしている店はありません。逆に前を出前をしているおかげで大鳳さん辺りはよいのかもしれませんが。ですから、出前の有無をあまり考えなくてもよいと思います。

○委員長(広地紀彰君) 田辺商業振興会副理事長。

○白老商業振興会副理事長(田辺真樹君) 昨日から商業振興会で事業として取り上げた出前のことをしていますが、ここだけに焦点を合わせると当会の会員以外の商工業者の仲間からも異論が出ると思いますし、まして地域が萩野・虎杖浜・竹浦の方からするとどうして白老ばかりと、西田委員が今おっしゃった、不公平感のような捉え方をされると困ります。議会として、何か対策を提言されるなら一律というほうが、国では一度に30万円と提案しいろいろと議論した結果、一律になって落ち着いているようなところがあると思います。地域を限定して、白老だけとか、このチラシに掲載している店だけとかですと、いろいろ後から同じ仲間同士なのに、うちはチラシに掲載され

ていないから関係ないね、という話になってはいけないと思います。議会として何か施策を考えていただけるのでしたら、町全体の商工業者に対して、何か一律で考えていただいたほうがよいかなと思います。まして、最初に理事長からありましたが、飲食業だけではなく、いろいろな納める業者とか商業者全体に今影響があるという中で、チラシに掲載のお店にだけ補助するような形になってしまうと、議会の施策としては違うという感じがいたします。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) 私が言っていたのは、あくまでも大町商店街だけでもらいたいのですが、それがもし町が対策を打つ場合は全町単位で、商店街のためだけということは絶対にあり得ないと思いますので、大町全体のためという形になると思います。それをしていただくだけでも商店街も、ほかもするとすると若干ありますけれども、これは全町的に盛り上がって、我々小売業も別に大町だけで商売をしているわけではありませんので、いろいろな所もありますので、それはみんなで相乗効果であり、自分達だけよければいいと今そのようなことを言っている場合ではありませんので、それは少し考慮していただきたいと思います。

○委員長(広地紀彰君) 西田委員。

○委員(西田祐子君) 今、どのようなお考えかを聞いたのですけれども、そのとおりだと思います。もし、議会から町に提言するとしたなら、やはり平等でなければならないし、ただ、町が全額負担するのかという考え方になると、少し違うのではないかと思います。この取組がすごくよいと思うのは、1 つは、白老町が高齢化社会で、特に車がなくなって食事もままならないという高齢者がたくさんいます。この機会に町が3分の1お金を出すとか、出前をした人が1個につき100円出すとか、お店が1個につき100円出すとか、三者でお金を分割して負担して、例えば白老町が半分負担してもよいと思います。お店と注文された方が4分の1ずつ負担するとか、この際、そのような新しい仕組みを考えてつくってみても面白いと思います。2、3日前からこれを見てそう思っていました。これを全町的にやることによって、新しい購買といいますか、つながっていけるとよいなと思っておりますが、その辺りはいかがでしょうか。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) 都会ですと出前専門の会社があります。お店がたくさんあって、出前をする。それで、お客様からは料金を取らず各店から1個200円とか250円とか取って、それは結構高いとは思いますが、お店の側にすれば、全く売上げがないよりは10個でも何個でも出前があって、その中で売上げが少しでもあったほうがよいという考え方なのです。

ただ、白老の場合は零細企業が多いものですから、1個につき250円、300円も取られたらそれは、とても無理なのです。ただ、今言われましたように、100円なら100円をお客様とお店が負担して白老町が200円か300円を負担してもらい、その割合は分かりませんがそれはすごくよい話だと思います。おそらくそれで当店は負担できないというのであれば、それはそれで参加しなければよい話ですので、そういうことができるのであれば、町と議会の皆さんでまとめていただいて、出していただけるのが一番で、我々にとってもすごく助かります。今言ったように一人暮らしの高齢者が多いものですから、それとスーパーくまがいさんとかいろいろな店も配達をしていますけれど、

出前だけではなくパンどとか牛乳など、そういう小さな店の配達業務をしてもらえるとよいのかなと思います。結構いろいろなまちでタクシー業者が大変で、国もそれを許可しましたので、意外とタクシーがそういうことを始めています。

○委員長(広地紀彰君) 西田委員。

○委員(西田祐子君) 今、久保田理事長もおっしゃったように、私、この間御用聞きわらびに行きましたら、わらびの方から買い物をしてきてほしいと頼まれました。スーパーくまがいに注文したので、お金を払って家まで届けてくれたら、買い物代も運賃も払いますとのことでした。わらびさんで送迎をして買い物に行っても同じ料金なのに、なぜですかと聞いたら、「コロナ対策で店に行きたくない。」と、そういう新たな事業も出てきておりますので、それがもっと進むと、バルクマートさんのように配達のお店がなくなってきておりますので、そういうところも必要になってくるのかもしれない。議会としても配達ということの一つ考えさせていただきたいと思います。

それと、もう一つ村上さんがおっしゃっていたのですけれども、私たち議会や役場が、意外と分からずにポケットになっている業種がまだまだたくさんあるのではないかと思います。そのようなところをもっと声を上げて、例えばこのような業種もありますと、教えていただければありがたいと思います。私たちが意外と気がつかない業種がほかに何かありますか。そのようなところにもっと声を出してほしいと思います。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) まず、3月4月で一番影響を受けたのは、花屋さんですね。卒業式や、歓送迎会で花束などがあります。そして、今はお葬式も簡素化されているので、花屋さんへの影響はかなりあると思います。意外とスーパーはよいと言われますけれども、スーパーのお店はよいかもしれませんが、卸しの部分、例えば納品、いろいろな寿司屋やホテルなどそのような関係もありますので、小売業も全体的に影響があります。

今、よいと言われる業種はまずないと言ってよいのではないかと思います。全てが駄目だと思います。ほかに、我々商業から離れますけれども、白老牛辺りは、ゴールデンウィークが稼ぎ時でしたが、売上げが前年の何割減のようで、飲食店関係などでは、白老牛の値も下がっておりますので、そのような業種でも大変な思いをしています。農業、漁業も魚も売れないので、高級魚が来ても全然売れないとか、あらゆる業種に影響が出ております。それをどこまで救っていくのかということは、莫大なお金が必要ですのでなかなか難しいと思いますが、何らかの形で、みんなで白老牛を買いましょうとか、そういうことも考えられるのかなと思うのです。何でも補助金と言っても切りがないと思いますので、それこそ給付金の10万円をもらったら、それを地元で使うぐらいのことを、みんなで考えていただければ一番助かるのです。

○委員長(広地紀彰君) 西田委員。

○委員(西田祐子君) そうですね。商工会の仕事なのかもしれませんが、10万円いただいたら、白老町は16億円ほど入ります。そのうちの2、3割を白老町の中でしっかり使っていただくと全然違いますよね。その辺をもう少し考えてもらえないのでしょうか。

以前に白老町のプレミアム商品券がプレミアム率を1割で発行されました。それを2割にしたり、

参加するお店を協力して増やしたりしても、プレミアム商品券を買って使えるところがないですね。そのような声を聞くものですから、もう少しプレミアム商品券でこういう物をどうですか、などよいものを提案していただければありがたいです。そういう物をぜひ提案していただけたら、私たち議員としてもぜひ応援させていただきたいと思います。頑張ってくださいと思います。

○委員長(広地紀彰君) それではほかの委員から。

貳又委員。

○委員(貳又聖規君) 貳又です。本日はどうもありがとうございます。先ほど来からのテイクアウトの宅配の関係です。いろいろとお話が出ておりますけれども、私のほうで持ち得ている情報ですと、北海道ではありませんが、道の駅がある自治体で、道の駅が観光客のみならず町民の生活支援も行っていて、コンビニを併設しているようなところなんです。そこではいち早く宅配サービスをしていて、道の駅を管理する株式会社、うちで言いますと観光協会に近いのですが、そういったところが担っているという事例が出てきております。

行政でいくと公平等というの難しいですが、そこで白老町に置き換えるのであれば、観光協会が持っている拠点で、宅配の部分はそちらが担うという連携はありなのかと、私は考えを持っておりました。その中での制度設計としては、経済産業省がコロナに係る地域再生の手立てとして、かなりのお金を補正で組み、各自治体から提案を待っているというような状態でもあります。そのような中で、宅配サービスを白老に置き換えるのであれば、観光協会を拠点としながら、宅配サービスは町民にとっても事業者の方にとっても非常によいサービスになると思っております。

それを、町のお金ではなくて、国が用意する可能性がありますので、そういった企画提案をぜひ持っていきたいという思いがありますが、その点について1点です。それから村上さんのお話がありました、小中学校、保育園、幼稚園の運動会やお遊戯会のような行事が今後開催されないようなことになる可能性もありますが、オンラインで会議などを行う時代ですから、野球や相撲のように無観客でもそれを撮って保護者の皆さんに提供するなどできます。議会といいますか、私からも行政に提案したいと思います。保護者が集まれなくても行事はどんどんしてくださいと、その撮影はきちんとしますということは必要だと思っております。もし、そのようなことを行う場合の安全対策はどのようになっていますか。撮影するに当たっての安全対策ですが、私からしてみると、全く問題はないのかと思うのですが、その辺をお聞かせください。2点です。

○委員長(広地紀彰君) 村上商業振興会副理事長。

○白老商業振興会副理事長(村上英明君) 安全対策というのは、人を減らしながら行事を行うというところだと思います。運動会、お遊戯会になると、札幌や苫小牧からおじいちゃん、おばあちゃんがみえる方もいらっしゃいますので、全く無観客でできるかどうか分かりません。また、子供たちのモチベーションもありますので、せめて保護者2人くらいに数を減らすなどが考えられます。それから、あまり密にならない種目といいますか、例えば6人で走っていたものを3人で走らせるとかでしょうか。こちらが普段撮影をするときは、子供たちと離れているところから写しますので、その辺の問題はないかと思います。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 観光協会が担うサービスの回答ということですか。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員、補足説明をお願いします。

○委員（貳又聖規君） 町が実施するのであれば、そのような町の補助団体ですか、観光協会が担うということも考えられますが、ただそれが国からお金を持ってくるとすれば、商業振興会さんのほうでもありかと思えます。観光協会に限ったことではありません。そのような宅配サービスがその隙間を埋めるということです。宅配サービスがあれば、皆さんのテイクアウトが伸びると思えます。その宅配の部分がなかなかないので、それは白老交通さんに担っていただければ、それはそれでよいと思えます。その辺の組立ての仕方です。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 我々の手続きは中小企業庁となりますが、様々な国の施策や商店街の施策などもあります。いかんせん、国のお金をもらうとなると、とても資料が多く、終わった後も報告事項等が多くて、我々が片手間ですということは難しいです。白老町の補助金制度もありますけれども、言い方が悪いですが結構面倒くさいのです。もっと簡素化していただければ助かります。昔役場の産業担当の課が中心になってくれた商店街の補助金がありました。役場の職員さんたちが手伝ってくれましたのでできましたが、報告書類だけで分厚いファイルになりました。おとしには、旅館の haku（ハク）も中小企業庁の補助金で直しましたが、あの時にもかなりの数の書類が必要で、何回もやり取りして、我々もそういうことをしたいのですが、補助金をもらうには非常に難しいですし、多くの補助金のメニューはあるのですが、大体はソフトの部分なのです。何かを作りたいといったハードの部分ではなかなかありません。その辺が大変ですので、国でも町でも、簡単に補助金をもらえるような制度を作ってほしいと思えます。それと、今言われた観光協会のようなシステムができるということは、非常にありがたいことですし、全町的な話になってしまいますので、商店街としての話にはならないと思えます。そういう話を進めていただければ、観光協会と商工会が中心になって、進めてもらうのが一番よいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 森です。今日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。私ども委員会としても、しっかりと協議して、町のほうへ声を上げていきたいと思っております。それで、テイクアウトの話などは大体理解しましたが、安全対策の面について、これからコロナが収束するのがいつになるのか分からないところで、もしかすると第3波、第4波などもあるかもしれない状況下において、その安全対策が重要と思うところです。例えば、医療や福祉施設においては、国のほうからマスクなどが支給されている状況もございます。小売業など備蓄業において、マスクやアルコールの現在の備蓄の状況等はしばらくもつ状況なのか、その辺の備蓄体制について伺います。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 先月くらいまでは、マスクや消毒薬は非常に切迫しておりましたが、今月に入ってからはかなり出てきております。マスクは相当あり、ほとんどのお店

で買えるようになってきておりますし、値段も下がってきております。消毒液も結構出てきておりますので、これからマスクや消毒液が足りない、というのはないと思います。おそらく、安倍さんのマスクが来ても今さらいらぬ、となると思います。それくらマスクは入ってきております。

○委員長（広地紀彰君） 森副委員長

○副委員長（森 哲也君） マスクやアルコールのほうは十分足りているということで、分かりました。テイクアウトに関してもう1点聞きたいのが、新聞のチラシで置かれたと思いますが、全町的なポスティングと新聞を取られている方の差があると思います。こういったもののPRが必要だと思うのです。全町的なポスティングをする際と、新聞広告の際、先ほど7、8万円くらいと値段をおっしゃいましたが、結構大きな差額が発生すると思います。全町的なPRに関しては、町から補助いただいでできないものなのか、私がこのチラシを見た時に、やはり全町的にポスティングをしたほうがよいのではないかと思いましたが、その見解についてお伺いします。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） 全町的なポスティングは、都会ではそういう業者があるようですが、現状で白老にそういう業者があるのかが分かりません。今回は白老と萩野までに絞ったのは、竹浦や虎杖浜から来ないであろうという勝手な考えかと、印刷代はそんなに変わらないのですが、折込料が結構かかりますので、虎杖浜まで追加すると十何万円となって、3万円も4万円も追加してそれだけの効果があるのか、と思ったものですから。でも意外と好評でしたので、第2弾、第3弾はまた考えてもよいのかなと思います。正直言います、商業振興会はこれだけではなく、次に、借金しないとまずいかなというくらいに非常にお金のかかる事業を抱えておりますので、そのためにも予算がある程度しか使えないこともあります。

今後の参考のために、一部しかありませんが資料を回していただきたいのですが、ウポポイ開設のタイミングに合わせて各店舗で看板をつくりたい。それに百何万円がかかります。それを今、多少助成金などを頂いて、残りは自己資金で相当なお金がかかります。町でたくさんお金を出していただければよいのですが、そういうわけにもいかないと思います。本来なら2回目、3回目と打っていきたいのですが、予算的なこともあります。今、回しているのが各お店の前に、そのお店の特徴を入れた看板をつけて、商店街としてウポポイを盛り上げようということをつくった缶バッジの資料です。以前に缶バッジをデザインしてくれた、白老愛泉園の丸山君という方がデザインしたものです。今月いっぱい、ある程度設置をしていこうという予定にしています。

○委員長（広地紀彰君） 長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 先ほど1人10万円の給付金が出たら、まちの中で食事などをして活性化ということもありました。やはりそうすると、先ほども久保委員からもありましたが、三密というところになります。商店街のお店の中で決めごとといいますか、店の外に、うちの店はこのように三密の予防のために皆さんにご協力をお願いします、とそのようなところを積極的にアピールしていただくと、お客様も安心してご来店できるかと思っております。これから緊急宣言が解除になっていくと思いますが、その時に、町民の皆さんも安心してお店に行くことができるように図っていただけたらと思います。そのような話合いなどはされているのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） そのような話は、正直まだできておりません。とりあえず自粛状態が続いており、まともに商店街の理事会も開けない状態ですので、ある程度緊急宣言が解除されたら、飲食店関係の人たちと一度話し合って、できるだけ白老から感染者を出さないためにも取組んでいきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 徹底しているということ、姿勢としてお客様の方から見受けられると、とても安心して行けるというそのような時代だと思います。ほかのお客様が去った後に、目の前で消毒をしているという姿に、今だからこそ安心してこの店に来られるというところもあると思います。検討をよろしくお願いします。

○委員長（広地紀彰君） よろしいですね。それでは一通りご意見も賜りましたので、最後に全体を通して、今テイクアウトや影響が広がりを見せている中のことを、具体的にいろいろとお示しいただきまして、私ども大変参考になりました。もし、それ以外にも何かこの際、議会、町に対して何か要望等あれば、お聞きしたいと思うのですが。では、まず田辺商業振興会副理事長。

○白老商業振興会副理事長（田辺真樹君） 今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。議会の皆様をお願いをしたいことがございます。私たち商業者の立場からすると、今、商店街はウポポイに向けて大きな予算をかけて、お客様をお迎えしようということが、白老の唯一、ここにしか光がないのではないかと思うほど希望の星なのです。ほかのまちではこんな大きなものはないと思います。しかし、はっきりしたことは分かりませんが、4月にウポポイを開設するのをぜひやめてほしい、という動きを議会でされたという話が、何となく聞こえてきたのです。私たちはそれを待っているのに、白老の議会で開設しなくてよいのではないかというのは、国の施設ですから国が総合的に判断すべきことではないか、と私は個人的に思いました。商業者はそれに向けて唯一の光なのに、あえて白老の議会の皆さんから、来てもらったら困るという声を上げる必要があったのかと私は残念に思いました。商業者の立場として、そこは唯一白老の明るい光だということを理解していただきたいというお願いです。

○委員長（広地紀彰君） あとほかに何かございますか。

久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長（久保田修一君） ウポポイがおそらく6月くらいに開設されると思いますが、いつの時代の話か分かりませんが、商店街が全部管理するような話になっているようです。土木の担当課に行くと言われます。昔は60何店舗くらいが沢山ありましたので、店の前の掃除ぐらいはできました。花壇もできました。でも、現状は皆さんもお分かりのように、空き店舗と空き地も結構あります。軒数も半分の30軒くらいになっておりますので、そうすると店の前くらいはできますが、空き地の前や花壇に関して、手入れをするのに補助金をお願いできないかと相談しても一切もらえず、年間十何万円かけて、自分たちで手に負えない部分は、花と緑の会に手入れをしてもらっている状況です。

ここは平成元年くらいにできた通りですので、花壇やブロックもかなり汚れていて、我々で清掃

するのも難しいため、せめて商店街の美観に関して、多少町のほうで面倒を見ていただけないかなと思います。昔と違って人手もなく、経営者も高齢化してきていますので、それについても考えていただけないかと思います。今まで何回も相談したのですが、錦の御旗みたいな感じで、お金がありません、財政が大変です、と、それで全て終わってしまいます。もう少し商店街のほうにもお願いしたいと思います。ウポポイが開設したら、この辺がある程度白老の顔にもなると思いますので、お願いしたいと思います。

○委員長(広地紀彰君) 要望事項として承りたいと思います。それではあとよろしいですか。委員からもよろしいですか。最後に全体を通してどうぞ。

西田委員。

○委員(西田祐子君) 先ほど、看板のチラシを見せていただいたのですが、今、大町商店街の方だけでこれをする予定でしょうか。大町商店街に入っていない方々も希望したら使えるのですか。なぜかという、白老町全部でこれをするようになった時に、白老町として国へ伝えて補助金を出すなり、白老町もお金を出すなり対応が違ってくるものですから、その辺をもう少し説明していただければありがたいと思います。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) これに関しては、あくまでも会員のお店だけを考えています。これは、会員からお金を集めているわけではなくて、商業振興会としての若干の蓄えと、今後これからのいろいろな形の収入を得て行っていこうと思っております。実際つけたいという方が会員外の方でもいますが、我々にはそのような余裕はありませんので、会員以外の方はお断りしております。あくまでもこれは、商店街の会員というくくりで考えております。

○委員長(広地紀彰君) 及川委員。

○委員(及川 保君) 先ほど来、意見としてあるのは、具体的にはタクシー代というものでした。今回、国からの1人当たり一律10万円の給付を、我がまちも実施するのですが、町が公平に事業主さんへ補助をすべきだというようなことになると、どのような対策が必要か、その支援策といっても具体性がないので、実現性が薄くなっていくのです。そういう部分からすると、事業主さんには何とか持ちこたえてほしいと、まだ、収束になっていない状況の中で、これからまだ続く状況があるわけです。そうすると、単にタクシー代の負担くらいではなく、事業主さんへ対する一律の補助が全てではないかと私は思っております。

この辺りの考え方が1つと、副理事長の議会に対するお話がありましたが、確かにそのとおりなのです。私たちもそのつもりは全くありませんでした。とにかくウポポイをオープンさせたいと思っておりました。ただ、コロナが一番怖いのです。白老町ではたまたま幸いなことに感染者は一人もいません。これが札幌や東京など様々な所からまちへ入ってくると、結果的には危険性が非常に高まってしまふ、と私たちは危惧しました。そこを間違えないでいただきたい。町民も私たちも一緒です。ウポポイは国のものですし、できれば開設してほしいと思います。しかし、その危険性が非常に高まったということがありましたので、あのような意見書になりましたが、その辺りはぜひご理解をいただきたいと思います。

その辺1点、どのようにお考えか、お聞きしておきたいと思います。

○委員長(広地紀彰君) 久保田商業振興会理事長。

○白老商業振興会理事長(久保田修一君) 個人的な考えとしては、一律皆さんにというのはよいと思いますが、それをしてしまうと切りがないと思います。結構困っていますとか、全く問題なく大丈夫という店も結構ありますので、そこまで全部する必要があるのか、白老町の中で本当に困っている人は、白老町で窓口を作って、売り上げが大変だとその中で相談していただくとよいかと思います。ハローワークへ行ってくださいとか、政策金融公庫でお金を借りてください、ということではないと思います。まちで困っている人に、多くの資料をそろえてください、ではなく決算書を持参してもらい、10万円とか少しの金額を補助するくらいのことはしていただきたいと思います。一律にすると財源も切りがありません。本当に困っているところを一件ずつ聞いていくのは大変です。できれば町で窓口をつくって、その窓口で制度の説明をしたり、ある程度補助金を出したりするとよいと思います。国では政策金融公庫などいろいろと出していますけれども、実際商店主で困っている方もどこまで理解しているのか、意外と理解していないということです。今回も休業したらいくらもらえるとか、6日までかと思えば15日まで延期になって、それもよく分かっていない人はたくさんいらっしゃいます。窓口を白老町が作るのか商工会でつくるのか、一概には言えませんが、できれば困っている人は救済システムのような窓口に行ってもらおうというのが、一番よいのかと思います。

○委員長(広地紀彰君) 田辺商業振興会副理事長。

○白老商業振興会副理事長(田辺真樹君) 私は、個人的には一律のほうがすっきりすると思います。ジャッジが難しいと思います。困っている、困っていない、それを誰にジャッジさせるかということが大きな問題になると思います。事業主さん全員を対象に案内をして、困っているなら申請してください、そうでない方は申請しなくてもよいです、というスタイルのほうがよいと思います。ジャッジする方が大変だと私は思います。

○委員長(広地紀彰君) そうですね。様々な観点からご意見を頂きました。

それでは、本当に今日は貴重なご意見をいただけるチャンスをいただきましてありがとうございます。

最後に、森副委員長からお礼も兼ねましてご挨拶を申し上げたいと思います。

では、森副委員長。

○副委員長(森 哲也君) 今日の懇談は、本来であればウポポイが開設しまして半月が経過した中でありまして、来町者がどのような流れになっているのか、具体的なお話を聞けるのではないかと考えておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ウポポイの開設が延期となってしまいました。どんなに深い夜でも、朝日は必ずまた昇る、という言葉もあります。この問題が早期に収束して、今後ウポポイが開設し、来町者がこのまちにあふれることを切に願っているところであります。

本日は、このような状況ではありますが、皆様方の活動状況や旗揚げ、今後の展望などをお話いただきありがとうございます。今、コロナに負けるな、というフレーズが、日本全国に広まってお

ります。私、コロナに誰も負けさせない、というまちづくりが重要だと思っております。今後、産業厚生常任委員会、一丸となって、この後今日聞かせていただいたお話や意見などをまとめさせていただきます、しっかりと町のほうへ話をしていきたいと思っております。本日は、貴重なご意見を聞かせていただき、ありがとうございました。

○委員長(広地紀彰君) それでは、委員の方は、少し残ってください。

白老商業振興会の皆様、どうもありがとうございました。

それでは、次回開催について、事務局から説明をお願いします。

○主査(小野寺修男君) 事務局のほうから、お話をさせていただきます。

皆さんのお手元には、5月22日に観光協会との所管事務調査ということで、今日と同じような形で聞き取り調査を考えております、という文書がいつていると思います。それに合わせているわけではありませんが、今、町の動きとして、5月21日に全員協議会の要請が議会にきております。明日、正式に議会運営委員会で諮るのですが、今日の夕方に議長、副議長のほうで、町とすり合わせを行います。内容としては、新型コロナウイルスの感染症対策地方創生交付金事業について、かなり新聞やテレビでもあると思います。それについて、また、町と皆さんでこのような質疑の場もあるかと、それを受けて、22日という流れになろうかと思えます。皆さんと話した時には、このコロナの事情から行くと、定例会5月会議が入ってくるのでは、ということもありましたが、補助金の関係も6月末に出すことになるようですので、定例会6月会議の中に上程されるような動きがあります。そうなりますと、最終的にはそこまでに、今日いただいた意見と22日の意見、22日に終わった後に、それをどのようにまとめるか、進めていくか、組立ても含めて考えていかなければいけないという感じしております。ですからあと2回されたらどうかということでございます。

○委員長(広地紀彰君) こういった形で、聞き取りをもう一度踏まえたのちに、委員各位からまとめに対してのご意見の機会を一回設けたいと思えます。本日のところは、これで終了させていただきます。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣言

○委員長(広地紀彰君) それでは以上をもちまして、産業厚生常任委員会を終了いたします。

次回開催は5月22日10時から同じ場所です。よろしくお願いいたします。

本日はご苦労様でした。

(午後 2時54分)